

プラセンタ注射(メルスモン)説明書・同意書

1. メルスモン(プラセンタ注射)とは

メルスモンは、ヒト胎盤(プラセンタ)から抽出・精製された医療用注射薬です。

胎盤には、胎児の成長を支えるためのアミノ酸・ペプチド・核酸・多糖類・各種増殖因子(グロースファクター)などの生理活性物質が豊富に含まれています。

日本では厚生労働省により更年期障害の治療薬として承認されており、婦人科・美容皮膚科などで広く使用されています。当院では自費診療として提供しています。

2. 期待される効果

以下の症状・目的に対して有効性が報告されています。

- ・ 更年期症状の緩和(ほてり・のぼせ・発汗・動悸・イライラ・倦怠感など)
- ・ 肌の潤い・ハリ・くすみ改善(美肌・美白効果)
- ・ 慢性的な疲労感・倦怠感の改善
- ・ 肝機能のサポート(肝細胞保護・再生促進)
- ・ 抗酸化・抗炎症作用(アンチエイジング)
- ・ 免疫機能の調整

3. 有効性とエビデンス

【更年期症状への有効性】

国内の二重盲検比較試験において、更年期症状(ほてり・発汗・倦怠感など)に対してプラセボと比較して有意な改善効果が認められています。日本産科婦人科学会の更年期診療ガイドラインでも治療選択肢のひとつとして言及されています。

【肝機能改善への報告】

慢性肝炎・肝硬変患者を対象とした研究において、肝機能指標(AST・ALT)の改善や肝細胞の線維化抑制に関する報告があります。

【美容・肌への作用】

皮膚科領域の研究において、メラニン産生抑制(美白効果)・コラーゲン合成促進・線維芽細胞の増殖促進が報告されています。

※ 効果には個人差があります。すべての方に同様の効果が現れることを保証するものではありません。

ません。

4. 投与方法・頻度

- ・ 投与方法:皮下注射または筋肉注射
- ・ 投与量:通常 1～2 アンプル / 回
- ・ 推奨頻度:はじめは週 1～2 回。症状安定後は月 1～2 回の維持投与
- ・ 継続期間:1～2 ヶ月程度継続することで効果を実感しやすくなります

5. 副作用・リスク

医療行為である以上、以下の可能性があります。

- ・ 注射部位の痛み・発赤・腫れ(一時的なものがほとんどです)
- ・ まれにアレルギー反応(発疹・かゆみ・じんましん)
- ・ 極めてまれに重篤なアレルギー反応(アナフィラキシーショック)

初回投与後は院内でしばらくお過ごしいただき、経過を観察します。

6. 献血制限について(重要)

プラセンタ製剤(メルスモン・ラエンネックなど)を一度でも投与された方は、その後は生涯にわたって献血ができなくなります。

これは日本赤十字社の基準によるものです。投与を希望される前に必ずご確認ください。

7. 投与できない方・注意が必要な方

- ・ 妊娠中・授乳中の方(安全性が確立されていないため)
- ・ 重篤なアレルギー疾患をお持ちの方
- ・ 過去にプラセンタ製剤でアレルギー反応が出たことのある方
- ・ 現在、他の注射療法や薬物療法を受けている方(要相談)
- ・ 医師が不適切と判断した場合

8. 代替治療

- ・ 経過観察(治療せずに様子を見る)

- ・ 漢方薬・サプリメントなどによるセルフケア
- ・ ホルモン補充療法(HRT)など他の医療的治療

※ 根本的な症状改善については、プラセンタ注射と比べて効果が異なる場合があります。

9. 費用について

※ 自費診療(保険適用外)

項目	料金(税込)
プラセンタ注射(メルスモン)	700 円 / 1 アンプル

(別途、診察料・処置料がかかる場合があります。)

10. 同意事項(患者様記入欄)

私は、上記の説明を受け、以下の内容を理解しました。

- ・ プラセンタ注射が自費診療であり、料金について理解した
- ・ 期待される効果について説明を受けた
- ・ 効果には個人差があり、すべての方に同様の効果が現れるとは限らないこと
- ・ 副作用・リスクについて説明を受けた
- ・ プラセンタ製剤を投与された場合、生涯にわたり献血ができなくなること
- ・ 妊娠中・授乳中の方には投与できないことを確認し、現在該当しないことを申告する
- ・ 同意はいつでも撤回でき、撤回しても不利益を受けないこと

私はこれらを理解し、プラセンタ注射(メルスモン)の治療に同意します。

患者氏名:

署名日: 年 月 日

医師名：

※ 本同意書は2部作成し、1部を患者様にお渡しします。もう1部は当院にて保管いたします。